

大腸CTについて

大腸CT

大腸CTは、X線CTを用い3次元画像により大腸内視鏡検査や注腸検査のような画像を構築し、癌やポリープなどの腸管内病変を見つける検査です。身体への負担が少なく、近年メディア等で注目を集めている比較的新しい検査法です。

●方法

大腸内の便を取り除くため、下剤やバリウム（コロンフォート）を飲む前処置が必要となりますが、下剤は大腸内視鏡の半分以下で済みます。肛門から大腸内に空気を注入するため専用のチューブを挿入いたします。大腸内をよく観察するため、大腸を十分膨らませた状態でCT撮影を行います。

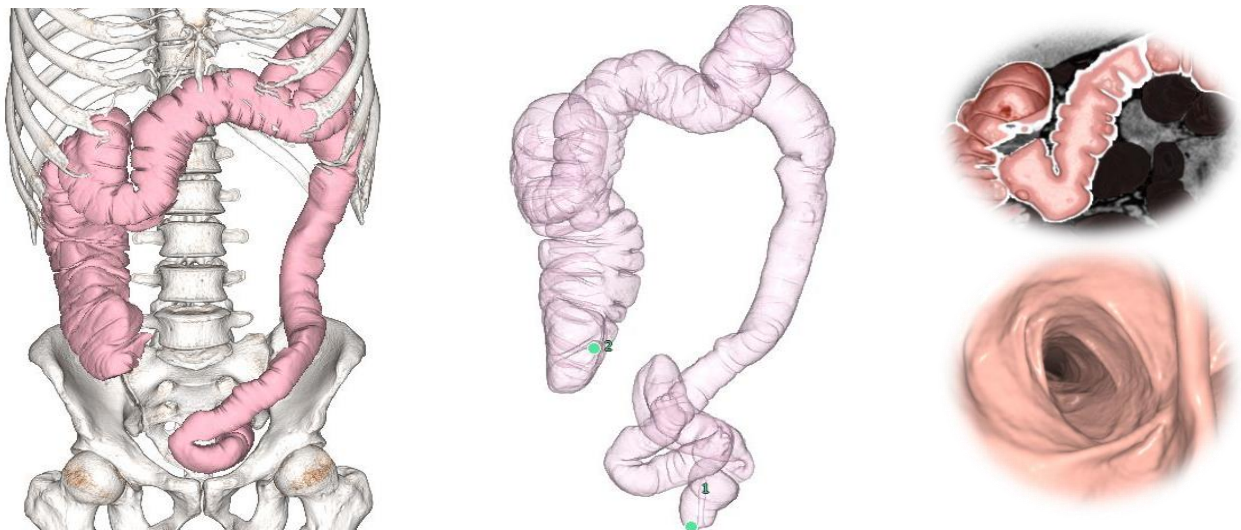
●利点

3次元画像で腸管内を観察できる為、大腸内視鏡検査では死角になりやすいヒダの裏側や腸管の曲がりなど多様な画像で確認することができます。また、お腹全体のCT撮影を行っているため、肝臓や膵臓など大腸以外の病気を見つけることができます。

●欠点

大腸内を直接見る検査ではないので、病変の色や硬さの情報は得られず、また、ポリープなどの病気が見つかった場合、改めて大腸内視鏡による精密検査が必要となります。前処置や大腸の膨らみが悪かった場合には不十分な検査になることがあります。

大腸CTの画像



大腸CTは、大腸に病気が疑われる場合には保険適応として検査を受けることができます。